

科研講演会

**Prof. Vera Tolz**

(The University of Manchester)

**‘Hybrid Memory Regime’  
in a Neo-authoritarian State:  
Commemorating the 1917 Revolution  
for Russian and Overseas Audiences**

コメント: 塩川伸明(東京大学名誉教授)  
高橋沙奈美(九州大学)

4月17日(水) 13:30--16:00

東京外国語大学・府中キャンパス 研究講義棟4階 海外事情研究所

使用言語: 英語



ヴェーラ・トルツ氏は、東方を包摂したロシア帝国のイメージの形成を論じた *Russia's own Orient: the Politics of Identity and Oriental Studies in the Late Imperial and Early Soviet Periods* (Oxford University Press, 2011) で知られる歴史家です。現代情勢への関心も深く、近年はプーチン・ロシアの「記憶の政治、歴史の政治」を論じるとともに、現在、マンチェスター大学で、'Reframing Russia' と題した現代ロシアのメディア分析の研究プロジェクトを進めています。本講演では、このプロジェクトの研究成果にもとづき、ロシア革命100周年がプーチン政権、官製メディア、オーディエンスの間でいかに顕彰されたか/されなかったかが論じられます。

- 主催：科研（基盤B）「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯—東スラヴ文化圏の領域横断的研究」（代表・沼野恭子）
- 連絡先：巽由樹子 [tatsumi@tufs.ac.jp](mailto:tatsumi@tufs.ac.jp)